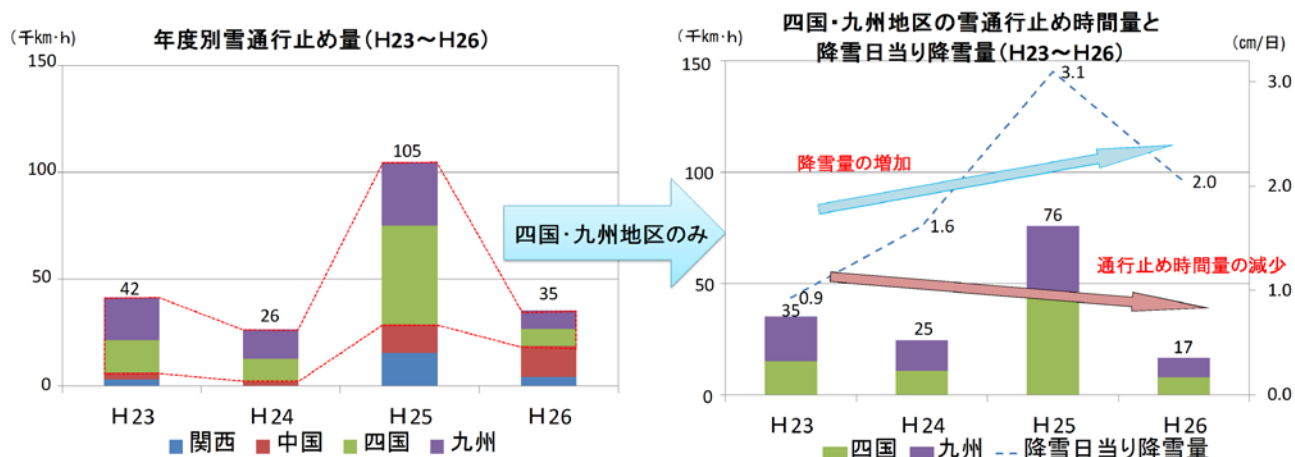


《参考》 NEXCO西日本の雪氷対策の取り組み状況

■ 昨年度の冬期通行止め状況

NEXCO西日本管内の雪による通行止めは、降雪範囲や降雪量により年度ごとに大きく変化する傾向にあります。もともと管内の大部分が降雪量の少ないNEXCO西日本管内ですが、昨年度に京都では61年ぶり、広島では9年ぶり的大雪により、名神高速道路や山陽自動車道でも通行止めが発生しました。

平成26年度の通行止め時間は、上記のような大雪に見舞われたものの、四国、九州など雪に不慣れた地区において、気象予測情報に基づき、事前に雪氷車両等の応援連携を行うことや、冬用タイヤ規制の導入等の新たな取り組みなどの効果もあり、通行止め時間は減少することができました。



■ 基本的な雪氷対策作業

NEXCO西日本では、主に凍結防止剤散布作業や除雪作業などの雪氷対策を行っています。



凍結防止剤散布作業(湿塩散布車)



除雪車による除雪作業



ロータリー車による除雪作業

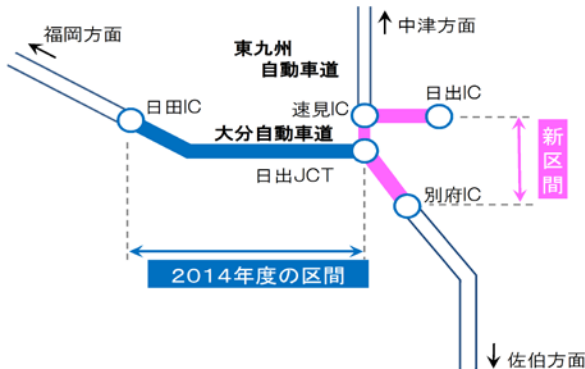


人力による除雪作業

■効率的な雪氷対策を実施するための主な取り組み

(1)冬用タイヤ規制の導入(九州、四国地区)

大分自動車道は標高が高く降雪も多い路線であり、降雪時には日田IC～日出JCT間では冬用タイヤ規制を導入しております。関係機関との協議により、今年度は日田IC～日出JCT～別府IC間および日出バイパスに冬用タイヤ規制区間を拡大し、通行止め回数・時間の削減に向け、更なる取り組みを進めて参ります。



《冬用タイヤ規制の時間帯変更位置図》



《冬用タイヤ装着確認状況》

また、高知自動車道は四国山地を縦断し、瀬戸内海側・太平洋側を結ぶ交通・物流の重要な役割を担っている路線であるため、降雪による通行止め時間を減らすための取組みとして、今冬季も川之江東JCT～大豊IC間において冬用タイヤ規制(チェーン装着車除く)の試行(実験)を導入する予定です。

高知 冬用タイヤ規制を試行的に実施

高知自動車道の一部で、雪による通行止め実施後の早期解除を目的に、実験的に冬用タイヤ規制を実施する場合があります。

高知道で冬用タイヤ規制を行う場合はチェーン装着車とノーマルタイヤ車等は走行できません。

■冬用タイヤ規制実施手順
降雪→除雪作業→通行止め→**冬用タイヤ規制による通行止め解除**

規制時にはインターチェンジ等において冬用タイヤ装着の有無を確認(スタッドレスタイヤ、スノータイヤの確認)し、未装着の車両については、最寄りのICで降りていただくことになります。

冬用タイヤ規制の実施条件等

- 冬用タイヤ規制区間と隣接する区間等において、通行止めや通行に支障となる事象が発生していないこと
- 通行車両がタイヤチェッカー場所(上り線は大豊インターチェンジ及び下り線は法皇トンネル北出口)まで安全な走行が可能なこと
- 冬用タイヤ規制区間において、降雪による視界不良がなく安全走行が可能なこと

迂回路案内図 (一例)

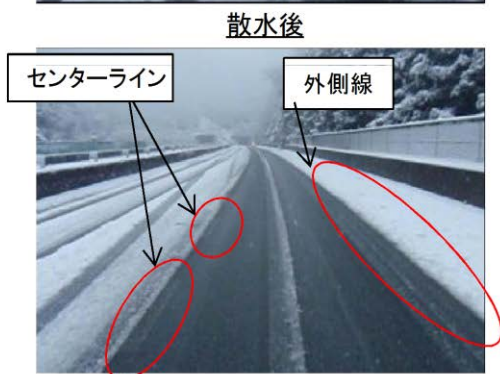
迂回路: 国道32号及び192号

『冬用タイヤ規制(チェーン装着車除く)』の対象区間とお知らせ

(注意) チェーン装着車は走行できません!! 通行の際には、スタッドレスタイヤ、スノータイヤを装着して頂きますようお願い致します。

(2)少雪地域において散水車による“ちらし作戦”による交通の確保への取組み(九州、四国地区)

九州(大分自動車道)や四国(高知自動車道)の少雪地域特有の除雪方法として、散水車を有効活用(高圧水を利用して路面の雪をちらす)して、交通確保する取組みを実施します。(平成25年度より実施)



(3)除雪車等の作業機械力の増強

積雪等による雪氷対策作業が広範囲におよんだ場合に除雪車等の作業機械の不足による通行止めを回避するため機械台数を増やしています。(平成 22 年度より実施)

今年度は、排雪作業用機械の強化として、除雪車を 7 台、湿塩散布車を 2 台、ロータリー車を 2 台追加配備します。

(4)降雪予測に基づく応援体制の構築

降雪予測を基に、局地的な大雪の恐れがある場合には、事前に除雪車等の作業機械を降雪予測路線へ集中配備するなどの応援連携を構築し、迅速かつ的確な対応を図ることで通行止めの回避、通行止め時間の削減に取り組んでいます。また、降雪状況によっては、近隣の事務所間のみでなく、支社間においても広域的な応援連携を実施しています。(平成 25 年度より実施)

(5)大雪時の追越車線優先除雪による通行止め早期解除(四国地区)

大雪による通行止めが発生した場合、追越車線にて優先的に除雪作業を実施することにより、通行車線を確保し、早期に通行止めを解除する取り組みを実施しています。(平成 23 年度より実施)



追越車線優先除雪による車線確保

(6) 滞留車両早期排除のためのレッカー車配備(関西、中国地区)

積雪による通行止めの原因となる滞留車両や雪氷対策作業の支障となる滞留車両への対応として、降雪量が多くレッカー車の到着に時間を要する路線において、事前にレッカー車を待機させ早期排除する取組みを行っています。(平成 25 年度より実施)

また、大雪により長時間通行止めとなる場合は、レッカー車等を集中投入し、災害対策基本法に基づき、立ち往生車両や放置車両を移動させる対応を実施しています。(平成 26 年度より実施) **更なる強化のため、降雪状況に応じたレッカー配備について、1~2 台の増強計画を行う予定です。**

冬の高速道路では雪氷対策作業や冬用タイヤ装着指導など、ご迷惑をお掛けしますがご協力いただきますよう宜しくお願いします。今後も各種取組みを進め、冬期の高速道路の安全・安心の確保に努めてまいります。

《参考》

■今冬の天気の見通し(12～2月)

気象庁発表による、今冬(12月～2月)の見通しは以下のとおりです。

予報のポイント

- 冬の気温は、東・西日本と沖縄・奄美では、北からの寒気の影響が小さく、高いでしょう。北日本では、ほぼ平年並でしょう。
- 冬の降雪量は、東・西日本では冬型の気圧配置が長続きせず、東日本日本海側で少なく、西日本日本海側で平年並か少ないでしょう。北日本日本海側ではほぼ平年並でしょう。
- 冬の降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすく、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では多く、西日本日本海側では平年並が多いでしょう。

〔 冬の天候に影響の大きい北極振動の予想は難しく、現時点では考慮できていませんので、予報には不確定性があります。常に最新の1か月予報等をご覧ください。 〕

〈出典：気象庁地球環境・海洋部

平成27年9月25日発表〉